

## 表象メディア論 A 映画とのタイアップがひきおこす現象

『The Man Who Knew Too Much』とDoris Day《Que sera sera》（1956）

『Flashdance』とIrene Cara《Flashdance...What a Feeling》（1983）

『Footloose』とKenny Loggins《Footloose》（1984）

『Top Gun』とBerlin《Take my breath away》（1986）

『The Bodyguard』とWhitney Houston《I Will Always Love You》（1992）

『Men in Black II』とWill Smith《Black Suits Comin》（2002）

『私は貝になりたい』とMr. Children《花の匂い》（2008）

### 『The Man Who Knew Too Much』（1934&1956／邦題：知りすぎている男）

監督：Alfred Hitchcock

概要：モロッコを訪れた医者ベン・マッケンナ（James Stewart）と妻で元歌手ジョセフィン・コンウェイ（Doris Day）は、現地で知り合った謎のフランス人の殺人現場に遭遇したことから、某国の首相を暗殺しようとしている一味に付け狙われ、息子を誘拐されてしまう。

音楽1：首相暗殺阻止 Arthur Benjamin, cantata “Storm Clouds” conducted by Bernard Herrmann

音楽2：息子の救出場面 Doris Day “Que sera sera”

### Doris Day “Que sera sera”（1955）

When I was just a little girl  
I asked my mother, what will I be  
Will I be pretty, will I be rich  
Here's what she said to me.

小さな女の子だった頃  
お母さんに尋ねました、私はどうなるの？  
美しい娘になれるかしら、お金持ちになれるかしら  
お母さんはこう答えました

Que Sera, Sera,  
Whatever will be, will be  
The future's not ours, to see  
Que Sera, Sera  
What will be, will be.

ケ・セラ・セラ  
なるようになるわ  
未来のことは、私たちにはわからない  
ケ・セラ・セラ  
なるようになるわ

### ヨハネによる福音書3章8節（新共同訳）

風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。

## 『Flashdance』 (1983)

監督：Adrian Lyne, [1941-](#)

概要：ピッツバーグで、昼は溶接工、夜はバーのダンサーをしながら独学でダンスの練習に励む女性アレックス (Jennifer Beals) は、ダンサー養成所のオーディションに応募するが、すでにクラシック・バレエ等を習得した他の応募者たちをみて自信を喪失する。また、ハンサムな実業家のニックと出会うが喧嘩してしまう。しかし、プロ・スケーターを夢見る親友ジェニーや、ジェニーの恋人でコメディアン志望のリッチー等に励まされ再度オーディションを受け、伝統にとられない独創的なダンスで挑む。

## 映画『Flashdance』の評

(“Rev. of Flashdance” *Variety*, 20 Apr. 1983)

It was pretty much like looking at MTV for 96 minutes: virtually plotless, exceedingly thin on characterization and sociologically laughable, pic at least lives up to its title by offering an anthology of extraordinarily flashy dance numbers.

## Irene Cara 《Flashdance...What a Feeling》 (1983)

First, when there's nothing but a slow glowing dream	最初、何もなくて、でもゆっくりと夢が育ち
That your fear seems to hide deep inside your mind	それはあなたの恐怖で、心の深みに隠れてしまう
All alone I have cried silent tears full of pride made of steel, made of stone	孤独な私は泣き、プライドの静かな涙を流した鉄で作られた世界で、石で作られた世界で

## 『Footloose』 (1984／邦題：フットルース)

監督：Herbert Ross

概要：高校生レン (Kevin Bacon) が都会のシカゴから西部の田舎町に、転校してくる。その田舎町ボーモントでは、ムーア牧師の息子の事故死を切っ掛けにダンスもロックも禁止されていた。レンが町議会に提案した高校の卒業パーティーも却下されてしまうが、牧師の娘エリエルと共に説得を続け、隣町の倉庫で開催するという条件で許可を受け、自由を勝ち取る。

## 杉原賢彦「作品紹介：フットルース」

『サウンド派映画の聴き方』フィルムアート社、1999年、88ページ。

ヒット曲を羅列し、映画のヒットとともに、音楽のヒット・チャートにもその風を吹かせようと企画した最初期の作品といえるだろう。

都会のハイスクールから、辺鄙な田舎のハイスクールへと転校してきた少年が、周囲の無理解に苦しみながらも、自分の道を切り開いていくというストーリーは、ロック音楽を背景にすることで、青春もののパターンを、少々のアレンジを加えながらも見事に踏襲するものだ。

ケニー・ロギンスによるタイトル同名の主題歌は、映画からピックアップされたシーンとともにミュージック・クリップとしてガンガン流され、当然のことながらヒット・チャートを席卷。しかも、ソニーが売り出し中だったウォークマンが、ハイスクールで禁じられているロックを、主人公が秘かに聴く手段としてプロダクト・プレイメントされ、ウォークマン流行のきっかけを作った映画としても記憶される (ウォークマンを聴きながらのダンスシーンは、正直言って、笑える)。その他、シャラマーの《ダンシング・イン・ザ・シーツ》、ジョン・クーガー (・メレンキャンプ) の《ハーツ・ソー・グッド》などがその後、ヒット・チャートをにぎわせた。

実際、脚本を担当したディーン・ピッチフォード自身が音楽にも参加しており、ストーリー (映像ではない) と音楽がうまくコラボレートした作品とすることは可能だ。

## 『Top Gun』 (1986／邦題：トップガン)

監督：Tony Scott, 1944-

概要：アメリカ海軍の艦上戦闘機パイロットのピート（TACネーム：マーベリック, Tom Cruise）は、秘匿事項とされた父親の謎の死の影を引きずっている。宇宙航空物理学教官のシャーロット（チャーリー, Kelly McGillis）に一目惚れし、立場を超えて恋愛関係に陥る。

### 杉原賢彦「作品紹介：トップガン」、

『サウンド派映画の聴き方』フィルムアート社、1999年、88ページ。

アメリカ海軍のエリート・パイロット集団「トップガン」を舞台に、若者たちの愛と青春を描くという、『愛と青春の旅だち』（82）の海軍版というべき作品。映画音楽の仕掛けは、『アメリカン・ジゴロ』（80）などのジョルジオ・モロダーが組み込んだ。

それまで無名だったベルリンの曲《テイク・マイ・ブレス・アウェイ》（※）を、ハイライト・シーンに絶妙に採り入れ、あたかもミュージック・クリップのごとき「映像美」と「爽快な感覚」を演出（実際、彼らのミュージック・クリップには、映画からのシーンが使用された）。

この相乗効果のおかげで、アカデミー主題歌賞を受賞。しかも大ヒットとなった結果、映画におけるレコード会社とのタイアップを、その後のハリウッド映画に促す元凶を作ったともいえる。

だが、曲の印象ばかりが強く、実際の映像の印象度は薄められるという弊害を招いたことは否めないだろう。それゆえ、この手の映画には常に、その場を圧するスターの存在が欠かせないものと言える。本作でもトム・クルーズとケリー・マクギリス、ヴァル・キルマーがその大役を負っている。

なお、当時、人気の高かったブライアン・アダムズが、最初、主題歌を歌うはずであったが、「戦争を賛美している」として、これを蹴ったというエピソードが伝わっている。

※ Berlin 《Take my breath away》（1986）

## 『The Bodyguard』 (1992／邦題：ボディガード)

監督：Mick Jackson

概要：レーガン大統領の警護を担当していた元SSのフランク・ファーマーのもとにある日、人気歌手レイチェル・マロンの身辺警護の依頼が来る。彼女の周囲で最近、不審な出来事が続いており、ついには殺害を予告する脅迫状までが送り付けられてきたため、フランクに白羽の矢が立ったのである。レイチェルは当初フランクを受け付けず反発するが、身を呈して自分を守ってくれる彼を次第に信頼するようになる。

### 杉原賢彦「作品紹介：ボディガード」

『サウンド派映画の聴き方』フィルムアート社、1999年、89ページ。

映画におけるレコード会社とのタイアップとして、もっとも成功した例が、『ボディガード』だ。主題歌となったホイットニー・ヒューストンの《アイ・ウィル・オールウェイズ・ラヴ・ユー》はじめ、同《アイ・ハヴ・ナッシング》《アイム・エヴリ・ウーマン》《ラン・トゥ・ユー》《クイーン・オブ・ザ・ナイト》《ジーザス・ラヴ・ユー》と、まるでヒューストンの個人アルバムのごとく曲を散りばめ、ケニーG & アーロン・ネヴィルの《イーヴン・イフ・マイ・ハーツ・ウッド・ブレイク》、リサ・スタンフィールドの《サムデイ》などをからませたサウンド・トラックCDは、それまでの記録を破る大ヒットを記録。

人気歌手をSPが守り抜くという単純なストーリーは、こうした「飾り」があって初めて生きているとも言える。スコアを担当しているのはアラン・シルヴェストリだが、むしろデイヴィッド・フォスターが、このあたりのアレンジングをしているはずだ。

もともとの企画自体は、70年代にダイアナ・ロスとスティーヴ・マックイーンの共演で考えられていたようなのだが、そうなるもモータウン・サウンドのオンパレードも考えられたのかも知れない（モータウンの場合、制作そのものに参加していた可能性が高い）。

いずれにせよ、音楽をプロダクト・プレイスメントとした映画の、頂点を極めた作品には違いないだろう。

### 『私は貝になりたい』 (2008)

監督：福澤克雄、1964-

概要：元陸軍中尉・加藤哲太郎の手記「狂える戦犯死刑囚」の遺言部分に基づく1959年版映画（フランキー堺主演）の脚本を担当した橋本忍自身がシナリオを改訂して制作。

### Mr. Children 《花の匂い》 (2008)

届けたい 届けたい 届くはずのない声だとしても あなたに届けたい  
ありがとう さよなら 言葉では言い尽くせないけど この胸に溢れてる

花の匂いに導かれて 淡い木漏れ日に手を伸ばしたら  
その温もりに あなたが手を繋いでいてくれるような気がした

信じたい 信じたい 人の心にある温かな奇跡を信じたい  
信じたい 信じたい 誰の命も また誰かを輝かす為の光

永遠のさよならをしても あなたの呼吸が私には聞こえている  
別の姿で 同じ微笑みで あなたはきっとまた会いに来てくれる

どんな悲劇に埋もれた場所にも 幸せの種は必ず植わってる  
零れ落ちた涙がちょうどいっぱいになったら その種に水を撒こう

人恋しさをメロディーにした口笛を風が運んでいったら  
遠いどこかで あなたがその目を細めて聞いている

本当のさよならをしても 温かい呼吸が私には聞こえている  
別の姿で 同じ眼差しで あなたはきっとまた会いに来てくれる

The image displays a musical score for the song 'Mr. Children 《花の匂い》 (2008)'. It consists of eight staves of music, labeled A-1, A-2, B-1, B-2, B-2', C-1, and C-2. The music is written in treble clef with a key signature of two sharps (F# and C#) and a 4/4 time signature. The notation includes various rhythmic values such as eighth and sixteenth notes, rests, and dynamic markings. The score is presented in a clean, black-and-white format.